

7月1日 ステキ

書き取りの答え合わせで、「ステキは素敵と書くので、注意してください。ステキの“テキ”は敵味方の敵」と説明した。そのまま当たり前のように授業は進んだが、板書しながら私の中で「なんで敵なん？」という疑問が湧き上がった。

日常的に用いている言葉の中には、誤用が一般化したものや“当て字”が結構多い。今使った「当たり前」も、誰かが「当然」のつもりで「当前」と書き誤ったものが一般化した言葉だと言われている。

大学のとき、言語学の教授が「みなさん、『時計』が当て字だと知っていますか。漢和辞典で調べてみてください。『時』には“じ”や“とき”という読みはありますが、“と”という読みはありません」。私の頭の中はコペルニクス的に転回した。信じて疑わなかったものに、理由もなく突然裏切られたような気がした。時計の元の字は「土圭」で、水時計のメモリが語源だとそのとき知った。それから私には何事に対しても、まず「なんで？」と疑う癖がついた。

さて、授業後「ステキ」が気になって調べてみた。案の定「素敵」は当て字で、「す的」が正式な表記であった。江戸時代後期に流行った言葉で、「すばらしい」の「す」に接尾語の「的」をつけた略語が語源だった。辞書には「素敵・素的・素適」の表記が載っている。

私たちには、与えられた知識を鵜呑みにして、「これが常識」と思い込む嫌いがある。実は上述の「す的」の話も有力な一説に過ぎない。「なんで？」と思ったとき、できるだけ情報を集めて、腑に落ちるまで調べてみると良い。付随していろいろなことが見えてくる。

その前に、「なんで？」と思える感性を磨いておく必要はあるが。

